

九日夕刊

て飽迄質問を試みたる上此の兩者の<sup>一</sup>は昨今最終の會議に於て支那側の

回結水に封鎖さるゝはありしは世を商るゝ向は京城府宛書面にて申出で

事業金融の三係に改め事務の統一とすべしと

六日來二週間に互に連日氣温平年以十一時より公會堂に於て官民一同の

△白井水城氏（隱國士） 九月入京即拜京

100



# 正月の思ひ出

## 大吹雪逆捲く夜を

観音堂の夫婦が本丸へ  
双手の爪でガリガリと戸を掻いた

「三ノスキーに乗って海金剛の水禽園へ」  
「観音堂の夫婦が本丸へ」  
「双手の爪でガリガリと戸を掻いた」

「観音堂の夫婦が本丸へ」  
「双手の爪でガリガリと戸を掻いた」

「観音堂の夫婦が本丸へ」  
「双手の爪でガリガリと戸を掻いた」

「観音堂の夫婦が本丸へ」  
「双手の爪でガリガリと戸を掻いた」

「観音堂の夫婦が本丸へ」  
「双手の爪でガリガリと戸を掻いた」

「観音堂の夫婦が本丸へ」  
「双手の爪でガリガリと戸を掻いた」

「観音堂の夫婦が本丸へ」  
「双手の爪でガリガリと戸を掻いた」

「観音堂の夫婦が本丸へ」  
「双手の爪でガリガリと戸を掻いた」

「観音堂の夫婦が本丸へ」  
「双手の爪でガリガリと戸を掻いた」

「観音堂の夫婦が本丸へ」  
「双手の爪でガリガリと戸を掻いた」

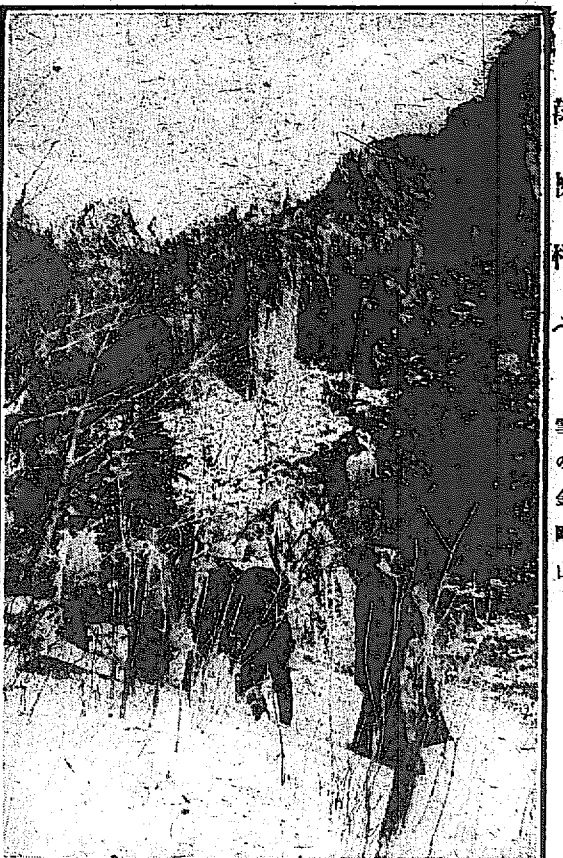
「観音堂の夫婦が本丸へ」  
「双手の爪でガリガリと戸を掻いた」

「観音堂の夫婦が本丸へ」  
「双手の爪でガリガリと戸を掻いた」

「観音堂の夫婦が本丸へ」  
「双手の爪でガリガリと戸を掻いた」

「観音堂の夫婦が本丸へ」  
「双手の爪でガリガリと戸を掻いた」

「観音堂の夫婦が本丸へ」  
「双手の爪でガリガリと戸を掻いた」



雪の金剛山

## 寒気何うして之を

### 撃退するか(建築)

日本建に今直ぐ、應用出来る保温設備

「日本建に今直ぐ、應用出来る保温設備」

「日本建に今直ぐ、應用出来る保温設備」

「日本建に今直ぐ、應用出来る保温設備」

「日本建に今直ぐ、應用出来る保温設備」

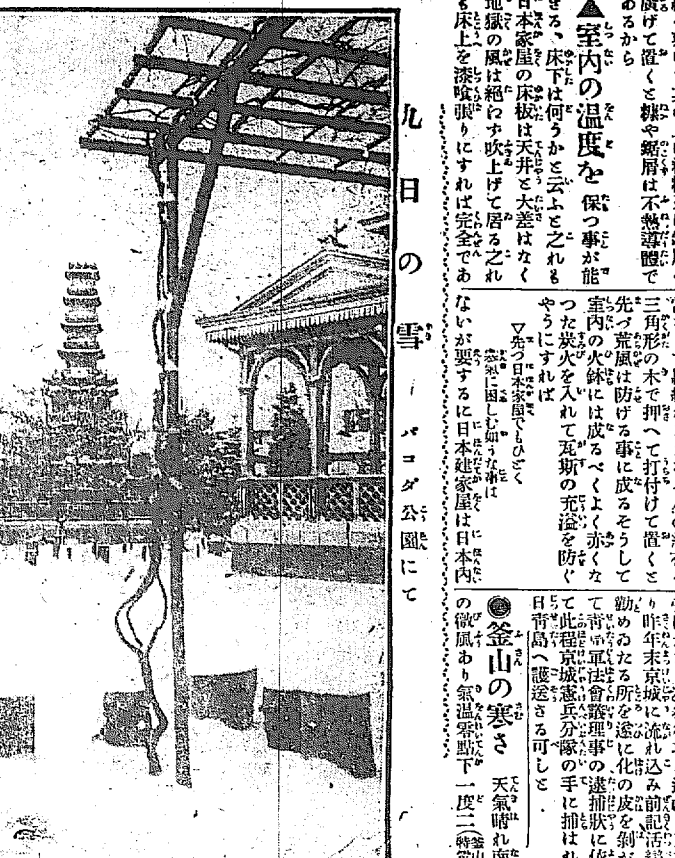
「日本建に今直ぐ、應用出来る保温設備」

「日本建に今直ぐ、應用出来る保温設備」

「日本建に今直ぐ、應用出来る保温設備」

「日本建に今直ぐ、應用出来る保温設備」

「日本建に今直ぐ、應用出来る保温設備」



九日の雪

## 大風雪

### 全国的

大風雪、全国的に大規模な暴風雪が吹雪いた。

「全国的に大規模な暴風雪が吹雪いた。」

「全国的に大規模な暴風雪が吹雪いた。」

「全国的に大規模な暴風雪が吹雪いた。」

「全国的に大規模な暴風雪が吹雪いた。」

「全国的に大規模な暴風雪が吹雪いた。」

「全国的に大規模な暴風雪が吹雪いた。」

「全国的に大規模な暴風雪が吹雪いた。」

「全国的に大規模な暴風雪が吹雪いた。」

「全国的に大規模な暴風雪が吹雪いた。」

### 演藝案内

座	演目
大正館	大正館
浪花館	浪花館
稻荷座	稻荷座
御成座	御成座

### 富道しるべ

富道しるべ	富道しるべ
富道しるべ	富道しるべ
富道しるべ	富道しるべ
富道しるべ	富道しるべ

### 天

天	天
天	天
天	天
天	天

### 花柳病専門

花柳病専門、各種治療、薬品販売。

### 大正館

大正館、各種演劇、音楽会。

### 天

天、各種演劇、音楽会。







第二十四席

田邊南龍口演

A black and white illustration of two men in traditional Chinese clothing. The man on the left is standing, wearing a dark robe with a sword at his waist, and looking towards the man on the right. The man on the right is kneeling or sitting low, gesturing with his hands as if speaking or explaining something.

札を遣はす、向ふ屋敷は酒井雅樂頭である、彼處へ參つて、悠ういふ者を乗せて來た、寶鏡を呉れろと斯様申すと、望み次第呉れる故彼處へ參つて貰へ、三、歌目を云つちやア叶けねいわんな處、行つて其處のことを云つて見させ、惣題目に出會すか知れねわ、餘り始めの話しが旨過ぎたから近處のことだらうと思つた、望み次第澤山に遣るなぞと云ふ願ひは、大層宜かつたが何にも云へぬ、元藏云はねわで何うか駄賃をくれなせに、天イヤー／＼相違なく其方に呉れるに依つて疑はずに參れ、大きに御苦労であつた、其儘スター／＼大手の橋を渡つて御門内に入る、三、アツとんでもねわ、ア坊主を乗せて來なが厄介なことになるつしまつた、此の内

を貰へと悠う云つて御門の内へス／＼入つてしまつたので、門／＼ンこれは其方が全然いたして居つて狐でもつままれたのではないか、三、ア念申しに伺ひます、強て下さい、愈々寒さ來れり、冷性で御困りの御方は、

津村本店の  
人蔘エキスを  
御存知無き御方でしたよう  
京坂本町一丁目電話四六〇番至五二二  
津村兄弟商會本店

云ふのではないが何うか見て貰ひいものだ、門／＼ドレ島渡此處へ出せと、門番が右の手札を取つて見ると、川越北院南光坊天海の御名札、門／＼、何だらう、スルと又一人の門番

△是は天師長老のお名札だが、コレへ甚麼も方だ。三葉一丈の長い年を老つた坊さんだ。  
△「ウン」三服  
装は甚い風で乞食坊主見たやうな汚入んだ。  
△「ウン、同役川越北條様、御服装にそんなお構ひになりかぬ、能く諸方をお歩きにならから殊に、自子の原から此者の馬に乗つて来たといふのであるから、同つたら宜からう、此方へ入れ。」  
△「此方へ入れよ。」  
△「さあんな金數と云はねわで宜がすが、強て貰はなければならねば。」  
△「云ふのぢやあれ、念晴しにお聞き申したので、何ぞまき鞠養してくださいませ。」  
△「それ無し、只今同つた上全く此物を知つた馬に乗る。」

此の有名な語、オノノミに於ては、  
 三「然うかね、デハ、皆くゆけば駄  
 賃をくれる、間違つた處で叱るこ  
 とは無いのだね」何で、其方を叱るも  
 のか、三「然うかね、デハ、皆免を貰つ  
 て行門内へ入つて一服取ぐべし」と  
 三五郎は安心をなして相待つて居る、  
 此段を戲へ申し上げたら雅樂頭侯  
 より直に御城へ伺ふと、今天海長老  
 が御上りになつた、三五郎と云ふ者  
 へ賞錢を遣はしくれいと云ふ御沙汰  
 でありますから、是を承はつて、酒井  
 の家來は直臨立歸り雅樂頭侯へ始終  
 を申し上げましたから雅樂頭は近因  
 を召して、雅、三五郎と申す者へ、手當  
 をいたし遣はす様、と申し付けまし

[illegible]

模範  
牛乳  
ニウソ  
石洗  
粉驗  
主 監 肥 保 正  
東京 城 菜 四 丁 目  
東 亞 牧 場

胃病なら

イの一番小

疾に苦む人の多いに醫術の進んだ今日でもキ  
 自に注射を唯一の療法として其の妙薬を發見し得な  
 士も此病で十年も困難して先年大學で故ベッ  
 自に診察者に乞ひ即ち藥を難して治す大勢で  
 持病を醫するに確證ある藥を發見し得た  
 特効藥なる事を確證した其効果の偉大なる不  
 貧困者に人を助に施すす時散り散り七  
 圖で廣く希望者に頒  
 東馬喰町三丁目振替三〇五四電話浪三六八四圓銀號發賣元大商店店

男のひみつ病  
 東京順天堂病院始め博士學士之證明實證と全快狀頗る多く全國發明  
 品中最高點の優等品に最新選せられたる天下唯一の特許品安易に自  
 品自然療法器具と共に最新選せられたる天下唯一の特許品安易に自  
 外用し得て生殖器に短小包皮萎縮能具に非ざる眞實品病國經實宅  
 許賣特許あり通に感る如く  
 東京京都本町三番地  
 大阪市北區本町三番地  
 大阪新療法研究所

商標 登録

イカイ骨散

衛生堂  
胃弱の特効剤  
胃健胃散

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

吟製

大塚醸造所

東京本町二丁目  
 電話一三七番  
 電口座四二五番  
 前田酒店  
 資本金五百萬圓  
 頭取 安田善三郎  
 株式會社  
 百三十銀行  
 東京支店  
 爲換取組先は内地各方面並朝鮮樞要の地有之候  
 銀行一般の業務精々御便利に御取扱申候に  
 電託園五八番  
 振替附金京城二九四番

各宮家御用  
マリールウ弁ス嬢



美容術大家

# 美 顔

## 一般御婦人の爲に語る

### 鴨川の水

鴨川の水がよいので、京都に美人が多いといふ事を聞いて居りますが、成程水質と美人とは密接な關係があるものです。といふのは石灰分を含む硬水、一口にいふ悪い水を使ひますと、皮膚は荒れ、色はじく黒くなり、肌理は荒くなるからであります。井戸水は何うしても多少共石灰分を含みますから皮膚には餘りよくありません。先づ安全なのは水道の水ですが、併し尙幾分かの石灰分が無いといふ譯には行きません。

水質を良くする法と預防法

井戸水でも水道の水でも、潮濕すると石灰分は大方無くなります。従つて顔を洗ふのには餘り熱くない湯を使ふのが一番安全ではあります。が、尙一層完全に水の害を防ぐのには化粧用美顔水が理想的であり

# 水

する

# 彦

ます。佛蘭西ではデタージヤント(洗面後用化粧水)と稱する化粧水が此目的で一般に持擲されてゐますが、其成分は美顔水に似てゐます。顔を洗つた後で必ず美顔水を附けておく事にすれば、硬水の害を防ぐ事ができます。私は浴後と洗面後に化粧用美顔水を附ける事を飲かしません。續けて使つてゐれば垢ぬける事も確かで、此點舶來化粧水デタージヤント以上と思ひます。

**右は** 去る八月排谷研究試験館附上に高貴御用品研究室を特設せる際御來觀をうけたるマールルウエズ嬢の贈られたお話の一節であります。美顔水は硬水の皮膚に對する害を防ぎ、續けて使へば垢メタして美しくなる事は同嬢のお話でも分りますが尙此の外にも

理想酌の白粉の溶水  
化粧用美顔水で白

理想酌の白粉の溶水  
化粧用美顔水で白

粉を溶いてお化粧すれば、白粉のノリノ  
 びが非常によくなり、思ふ儘に美しいお  
 化粧ができます。

△又にかき吹き出物を治すのには別に  
 「ニキビこり美肌水」がありますから  
 其れをお買ひ致します。

## 宮内省御買上品

△新美容素を完成したる

### 桃谷研究試験部

<p>△顧問            醫學博士 山本淳二氏</p> <p>△主任            藥學士 小磯勝次郎</p>	<p>藥學博士 丹波敏二氏</p> <p>藥學士 千葉藥學士</p> <p>藥學士 齋藤銳助</p>
--	--



發行所 東京市京橋區三丁目  
電話 六六六六  
電報掛號 六六六六  
印刷所 東京市京橋區三丁目  
電話 六六六六  
電報掛號 六六六六

然れども、（一） 財政策上より之を懸  
するときは、別に其處理を考ふるの  
必要あり。乃ち在外正貨にして我國

の代價たるは、大抵西洋に英吉利海峡の海上を航行する日を敢て被殺し希望者に通知せらるゝものとなつて居る。又又は保護等の目的で航れる人の朝には餘り無い海賊を渡る人は多くある併し其標必要は目下の朝廷に決定の要務を持ち一日も早く渡らねばならぬので多少の懸念位は初めから覺悟を決めて居る海上を利用すること歐米人の程度に達したる報の注目せらるゝことも一層切實ではある併し邦内地では地方の特種な産業と豫報報とは己に密接な關係を結ぶまでに進歩して居る例へば長野縣龍馬墓の如き養蚕地方

は今度更に一段の進歩を遂ぐる爲には風土の適否を調べ組織的觀察を要することは皆を俟たざるどころである是に於て始めて詳細なる觀測の成績が必要となり未知の富源を開拓することが出来るのである尙文朝劇の土地開發上の根本の問題とも云ふべき治水事業は氣象觀測の成績に據らなければならぬ殊に河川の水源地たる山岳地方の氣象狀況は今日尙全然未知の有様である此地方降雨の狀態を測べること此問題に關しは當前の急務である要するに朝では漸く氣象事業の成績を眞に利用する時期に入れたものと云ふことが

程度の癡はれるのは愉快のことである

の重要な役目を負して居る。又今日一  
服の要求であるところの長期の豫報

名を求むる事愈々遠

急にして、名の戸

人を害し、國を  
に寒心に堪へず

るに至つては、  
今日最も我民族の

るゝ徒輩の衆愚  
唱道せる者なり

而して青年浮薄の

先を忘れ、進で其

其毒の深

加<sup>くわ</sup>之<sup>の</sup>なら<sup>ら</sup>ず毒<sup>どく</sup>を<sup>を</sup>

孫に流傳す。

大正六年 = 國 = 民 = 年 = 鑑

八百五十頁の大冊子  
定價僅に五十錢 郵税八錢

我が國民年鑑は國運の進展社會の發達に伴ひ年々其の内容を改善し特に多年の經驗は本書の實質をして益々完備の域に達せしめ今や日本に於ける唯一の年鑑として最高の權威を有するに至れり試みに大正六年國民年鑑の新特色を擧げんに先づ卷頭に

續日本帝國の使命 侯爵大隈重信  
 進取の氣象武育の精神 男爵上原勇作  
 戰後の一大經濟問題 大藏大臣勝田主計  
 農村救濟策 農學博士横井時敬  
 大陸經營と日露貿易 男爵目賀田種太郎  
 米國海軍の趨勢 海軍中將佐藤鐵太郎  
 空中勢力の發達 陸軍中將長岡外史

諸氏の最も時局に密切なる大論文を掲載し政治、經濟、財政、金融、軍事、外交、産業、教育、宗教、衛生、美術、文藝、運動、演劇、遊藝、相撲等社會百般の事象悉く最新最近の事實に據りて調査記載し内容の精練記事の豊富編纂の周到にして一絲亂れざる而して特に印刷の鮮明なる歴然として改善と完備の實を證明す物價暴騰の今日八百五十頁の大冊子を僅に五十錢の定價にて江湖に提供するは眞に奇蹟的至廉にして是れ本社が聊か滿天下の愛顧諸君に對する微衷の表現也

發行所 民友社

東京市京橋區日吉町

京城太平通 丁目  
 京城日報代理部  
 電話六六〇番 振替京城三〇〇番

朝鮮一手販賣所

京城本町二丁目

京城日報社各地支局

賣捌所  
 電話二六六番  
 振替京城四五番  
 巖松堂 京城店











